

飯山高校 桂雪会報

第9号

発行日 令和8年2月20日
発行人 長野県飯山高等学校 桂雪会長 宮本 衡司
編集 桂雪会事務局
印刷所 (株)足立印刷所



桂雪会の新たな活動と午年の飛躍を期待して

飯山高等学校同窓会 桂雪会 会長 宮本 衡司 (飯山北S45年卒)

令和8年を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。桂雪会員の皆様には、日頃から桂雪会の活動に対し、ご支援とご協力を賜り心からお礼申し上げます。

今年(丙午)は「ひのえうま」年です。午は活力・行動力・前進・情熱を象徴しており、午年は新しい挑戦や飛躍を試みるに良いとされているように、本会の活動も活力に満ちた活動になるようご協力をお願いする次第です。

さて、人口減少が進むこの地域で、昨年は飯山高校の普通科の募集定数が1学級減となり、母校の行く末が心配されました。しかし、本会や地域の教育関係者の熱い思いと中学卒業生数の微増により、来年度の募集定数は1学級増の5学級の募集となりました。飯山高校の教職員や生徒の皆さんは、日々目標に向かって精進されており、その成果も顕著ではありますが、生徒の志願状況はなかなか苦しい状況にあるようです。この地域において、なくてはならない高等学校ですので、桂雪会としても、これまで以上に応援をしてまいりたい所存です。来年度に向けて皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

「飯山高校の発展を願う研究会」の立ち上げと生徒募集活動

6月の総会で、「飯山高校の発展を願う研究会」の設置が承認され、具体的に様々な支援や提言を行っていくことになりました。まずは現状分析を行い、学校職員や地域の教育関係者との懇談も行うなどして、志願者の増加のための活動を行うことにしました。

「飯山高校のポスター制作とクリアファイルの配布」

まず、飯山高校の好感度を上げるために、ポスターを作成して中学校に配布しようということになりました。美術部と書道部に依頼をしてデザインを考えてもらい、写真のような2種類のポスターが完成しました。さらに、クリアファイルを作成して、中学生に配布しようということになり、さっそく業者にポスターと同じ図案で発注をし、8月の下旬には手元に届き、旧1区の中学校及び中野・山ノ内の中学校に届けました。

【中学校訪問の実施】

9月中旬からは、北信地区、および上越方面の中学校に訪問し、教頭や進路担当、3学年担当教員に飯山高校の良い点をアピールして回りました。研究会のメンバーのうち10名で分担して、ポスターや学校案内、独自の資料を持参し、学習面や進路状況、課題研究やクラブ活動について説明を行いました。中野

以北の地元中学校には、1回目は校長先生が、2回目は研究会のメンバーで学校訪問を行い、多くの生徒が飯山高校に志願していただくようお願いをしました。次年度以降も、長期的な視野で飯山高校の発展につながるような活動を行って参ります。

卒業30周年記念同窓会の開催

この事業は、総会への出席者が少ないことや、同窓会活動の停滞を改善するため、新たに実施した事業です。卒業30周年を迎える学年に、旧交を温め、母校愛を持つてもらえるよう同窓会を開くことをお願いしました。6月の総会で、事業は承認されたものの、準備時間の余裕がなく自転車操業的な開催となりました。飯山照丘、飯山南、飯山北の3校の卒業生と相談した結果、飯山北高だけの開催となつてしまいました。まずは事業を始めたいことを優先し、年々改善して行きたいという思いでした。8月16日の送り盆の日の開催でしたが、45名の参加でにぎやかに開催することができました。

冬期間スクールバスの運行

これまで、中野・山ノ内方面の冬期間のスクールバス運行を業者に委託してきましたが、昨年度は運転手不足のため、運行できませんでした。今シーズンも、同様の状況であり、業務が受託できないとの返答でした。そこで、特に公共交通機関の便が悪い山ノ内、中野東部の地域の生徒を中心に、桂雪会が主体となつてスクールバスを運行することになりました。関係部署への問い合わせや制度設計を校長先生や事務長にお願いし、運転手も岸田博章さんに依頼して12月15日(月)から開始することができました。今年度の実施状況

を踏まえ、次年度以降の改善につなげていきたいと思ひます。

ミラノ・コルティナ冬季五輪の開催

令和8年2月6日から22日まで、第25回オリンピック冬季競技大会がイタリア北部の都市ミラノとコルティナ・ダンペツォで開催されます。前回の北京オリンピックには3名の同窓生(飛躍に岩淵香織、複合に山本涼太、距離に小林千佳)が出場し、特に山本選手は複合団体で銅メダルを獲得する活躍をしました。今回のオリンピックにも3名の同窓生が選手として参加することが決定しました。丸山希(ジャンプ)、山本涼太(コンバインド)、小林竜登(スキークロス)の3選手です。丸山選手は、けがのため前回の北京五輪には出場ならなかったものの、その悔しさから今回はワールドカップで6勝しており、メダルの獲得も期待されています。山本選手も、日本のコンバインド競技をリードし、2回目のオリンピック出場に期待がかかります。小林選手は、高校時代はアルペンのスピード系を得意とする選手でしたが、スキークロスという新種目に挑戦し、見事オリンピック出場となりました。桂雪会としてもお祝いの気持ちを伝え、各選手の活躍を期待したいと思います。

年明けから各方面で様々な動きがあり、我が国の政局や世界の社会状況も混沌としています。なかなか先を見通せない状況で、何が良く何が良くないのか判断に迷うことも多いこの頃です。

このような時こそ、人とのつながりや絆が大事になつてくるのではないかと思います。同窓生というつながりを大事にしながら、桂雪会員の皆様のご多幸と、「地域社会」や「地域を支える人を育てる学校」の発展を願つてまいります。(令和8年1月)



10年目の飯山高校

生徒の輝きと学校の今

学校長 金井 繁昭

桂雪会の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に對しまして多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

本校は一昨年度に学校創立120周年の節目を迎え、平成28年4月に市内の高校3校が完全統合した飯山高校がスタートして今年度で10年目となりました。この脈々と受け継がれる伝統の上に生徒たちは日々、勉強・部活・学校行事に励んでおります。

さて、この紙面をお借りして、昨年度末から今年度ここまでの生徒の活躍や、学校の様子、動き等についてご報告させていただきますと思います。

まず、昨年度は2年生の生徒が行った研究「二酸化炭素吸収ポリアルMBRの開発」が高校化学グラウンドコンテストで全国2位となり、台湾で行われる世界大会（台湾国際科学フェアTISF）に日本代表として出場しました。そして見事、生化学部門で1位を受賞することができました。自ら志願してこのコンテストにチャレンジした生徒たちの勇氣、行動力に感服いたしました。校内はもとより、桂雪会の皆様はじめ地域の方々にも大変喜んでいただきました。長年取り組んできたSSHの取り組みが実を結び、学校としても大きな自信となりました。SSHは今年度で第III期の5年が終了となります。現在、次の第IV期の指定に向けて文部科学省へ申請書を出し、挑戦しているところです。

次に昨年度2月に行われたインターハイ・スキー競技において、男子総合優勝、女子総合優勝を取ることができました。生徒たちの日々の努力を讃えるとともに、皆様のご支援に心より感謝いたします。今年度も間もなくインターハイが開催されるようになっています。生徒たちは全国選抜大会やその他各種大会に参加しつつ、男女アベック優勝を目標に掲げ、調整を進めています。今年も活躍に期待が寄せられています。

もう一つご紹介したいのは文化祭の様子です。生徒たちにとって文化祭は1年の中の最大行事です。いろんな思いを寄せて、思い出に残る盛り上がりを目撃に頑張ります。コロナが5類になり今年で3年目です。生徒たちにも元気がもどってきた印象です。今年のテーマは「動く点Iを求めよ」。「点」には第10回のtenの意味が、「I」にはIikosa i（飯高祭）・自分のI・愛の意味を込め、生徒一人一人が主体的に動いて愛の溢れる文化祭になるよう、数学の「動く点Pを求めよ」に因んでのテーマでした。実行委員長の「全校が一体となれるような文化祭にしたい」という強い思いに全校生徒が応え、本当に一体感のある盛り上がりだった文化祭となりました。一般公開には2,000名を超えるお客様が来校してくださいました。飯山高校生の良さを見ていただけたのではないかと思います。ここで、現在学校が抱える課題について

も書かせていただきましたと思います。それは少子化の中での生徒募集です。令和7年度の生徒募集においては地元の中学3年生の人数が大きく減少したことを受けて本校で募集定員を1クラス減らさざるを得ませんでした。その結果、普通科を1クラス減じて、普通科1クラス、探究科2クラス、スポーツ科1クラス、計4クラス募集となりました。それでも定員を満たすことができない状況があります。そして人数が少ない分、各クラブへの入部者の減少が見られるなど、学校としての活力をどう維持していくかが大きな悩みです。令和8年度は地元の中学3年生の人数が少し戻ったため、本校の募集定員は1学級増と決定されました。令和7年に減じた分が元に戻るのですが、いずれにしても、いかに入学生を確保していくか、正念場を迎えています。そのような中、桂雪会内に「飯山高校の発展を願う会」を立ち上げていただきました。広く本校の良さをPRしようということ、PRポスター・クリアファイルを作成していただき、本校の魅力をまとめた資料も持参して、会員の皆様は北信地区の全中学校を訪問してくださいました。ここまでやってくださる同窓会にはありません。本当に心強く、感謝いたします。間もなく入学者選抜が始まります。一人でも多くの生徒がこの学び舎に集ってくださることを願うばかりです。

課題としてもう1点。桂雪会に費用をご支援いただいて運行しております山ノ内・中野方面と木島平方面の冬期間のスクールバスについてです。運行を委託していた業者様から昨年度、ドライバー不足により運行できなくなった旨連絡がありました。このスクールバスをあてにして入学した生徒たちにとっては大問題です。昨年度は様々検討した結果、運行を断念せざるをえませんでした。そして昨年に続き今年度も同様の連絡があり、学校としても大変困惑した次第です。今後もドライバー不足が解消される見通しは立たないことから、桂雪会独自でドライバーを探し、スクールバスを運行することとなりました。同窓生の方でスクールバスの運転をしてくださる方がいらっしゃり、山ノ内・中野方面のみですが、何とか運行にこぎつけることができました。母校を応援してくださる熱い気持ちに心から感謝いたします。

様々な課題はございますが、目の前の生徒たちの一層充実した高校生活のため、学校づくりに努めてまいります。

最後になりますが、桂雪会の皆様には、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いするとともに、桂雪会がますます発展されることを祈念してご挨拶いたします。



SSH わくわくサイエンスフェスティバル

学校の様子

◎スキー部パレード

3月20日、スキー部のインターハイ男子総合優勝・女子準優勝を記念しての市内パレードが行われました。午後1時に市役所前を出発し、飯山駅までのコースを「男子総合優勝、女子準優勝」の横断幕を先頭に、スキー部生徒に加え吹奏楽部の演奏とともにパレードを行いました。沿道に駆けつけたみなさんには、同窓会が作成した小旗が配布され、パレードに花を添えました。飯山駅前では、成績報告がおこなわれ、大勢の市民の方々から、お祝いや激励の言葉をいただきました。



◎台湾交流

4月22日、台湾の国立中央大学付属中壠高級中学の生徒45名が本校を訪れ、交流会がもたれました。午前中の歓迎セレモニーでは、本校の吹奏楽部の演奏、ダンス同好会のパフォーマンス、書道部の書道パフォーマンスが披露されました。台湾の生徒のみなさんからもダンスや歌の発表がありました。その後、文化交流として書道や伝統工芸の授業交流が行われました。昼休みには、大講義室で昼食交流が行われ、台湾の高校生のテーブルに本校生徒が混じって昼食をとりました。英語やスマホの翻訳アプリ、身振りを交えての意思疎通が行われました。



◎文化祭

7月5日(土)・6日(日)、第10回飯高祭の一般公開が行われ、多くの方に来場客でにぎわいました。一般公開に先立ち、学校から本町交差点までの仮装パレードが実施されました。吹奏楽部の演奏を先頭に、各クラスが順番にクラス展示の紹介を兼ねた服装でパレードしました。玄関前でのオープニングセレモニーを経て、一般公開が始まりました。体育館では芸術祭としてダンス部、弦楽部、吹奏楽部、軽音楽部の発表が行われ、中庭ではビンゴ大会やクイズ大会などのイベントが開催されました。美術部・書道部の作品展示をはじめ、百人一首部や自然科学部の活動紹介もありました。図書委員会のエコバッグ製作、保健委員会による簡単健康診断などもありました。者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



◎共通テスト激励会

1月15日(木)、共通テストを受験する3年生92名が大講義室に集まり、激励会が開催されました。校長先生のあいさつに続き、進路係の米澤先生からの諸注意、各担任の先生方からの激励がありました。また、「信州いいやま謙信笹ずし協議会」の皆さまからの笹ずしの贈呈式が行われました。笹ずしは上杉信玄の故事になった郷土食であり、必勝祈願・勝負メシでもあるということです。激励会の最後には全員で「ガンバロー」を三唱しました。



◎SSH

・地学部門「釉薬チーム」最優秀賞

12月に信州大学理学部で行われた全国高等学校総合文化祭長野県予選において、2年生の「釉薬チーム」が地学部門で最優秀賞を獲得しました。全国総合文化祭自然科学部門への4年連続の参加が決定しました。また、物理部門で「ひらひらチーム」が入賞し、北信越大会への参加が決定しました。

・長野県高校生探Qフェスティバル参加

12月松本勤労者福祉センターにて開催された、「長野県高校生探Qフェスティバル参加2025」に探究科2年生の課題研究の4チームが参加しました。「AIによる学習アプリ開発チーム」、「『するしない』の用法チーム」、「信越トレイルチーム」、「マイクロプラスチックチーム」はポスターセッションに参加し、多くの来場者の方に研究発表を聞いていただきました。



おめでとう
冬季五輪
飛躍
丸山
本山
希涼
登太

◎2026 スキーインターハイ 主な結果

男子	総合優勝				
女子	総合	3位			
女子	クロスカンントリー	フリー 5km	久保田美有	優勝	
		クラシカル 5km	久保田美有	3位	
女子	スペシャルジャンプ		坂本 季花	2位	
男子	コンバインド		糸氏 琉人	優勝	
			富井 孝	2位	

◎スキーノルディックジュニア 世界選手権大会出場

スペシャルジャンプ	坂本 季花
コンバインド	糸氏 琉人
	富井 孝



◎祝 丸山希選手 銅メダル獲得

ミラノ・コルティナ冬季オリンピック 女子スペシャルジャンプ ノーマルヒル



同窓会レポート

「飯山高校の発展を願う研究会」活動報告

飯山高校への志願者数が減少している状況に対して、同窓会有志による「飯山高校の発展を願う研究会」が立ち上げられました。研究会では飯山高校の魅力をアピールし、生徒募集での志願者増を目的とし、渡辺藤夫氏を中心としてデータ収集・資料作成、ポスター等の作成、中学校訪問を計画しました。在校生や卒業生へのアンケート結果をもとにした飯山高校の魅力をまとめた資料、進路実績・SSHの成果などの資料、さらに美術部・書道部の生徒の協力を得てPR用のポスターとクリアファイルを作成しました。9月から11月にかけて、北信地区および新潟県妙高市・津南町の52校の中学訪問を実施しました。研究会長の上海一徳氏をはじめ、米澤修一、村石桂太郎、小橋浩樹、石澤一芳、渡辺藤夫、宮澤良裕の各氏が分担して中学校を訪ね、飯山高校の特徴や魅力を伝え、中学生の目に留まるようにポスターの掲示をお願いしました。同窓会による生徒募集活動は珍しく、各中学校においては、いずれも丁寧な対応をしていただきました。



車両寄贈

グラウンド整備用に使用していた車両が故障し、使用できなくなったところ、日ごろよりお世話になっている松山オート様より、新規車両を桂雪会に贈呈していただけることとなりました。10月7日、グラウンドで野球部生徒が参加し、贈呈式が行われました。松山オート様より同窓会に寄贈していただき、授業やクラブ活動で使わせていただくこととなりました。



スクールバス

12月15日より今年度のスクールバスの運行が始まりました。スクールバス事業は、これまで同窓会より補助を行い、業者に運行をお願いしていましたが、昨年度は運転手不足などで運行できませんでした。今年度も運行可能な業者が見つからなかったため、同窓会所有のマイクロバスを使用して、従来中野・木島平方面の2便だったところを中野方面の1便として運行することとなりました。運転も岸田博章氏を中心に同窓生にお願いすることとなりました。12月15日朝8時過ぎに、今年度初めてのスクールバスが学校に到着し、玄関前において桂雪会宮本会長のあいさつがあり、生徒代表から運転していただく岸田さんに花束が手渡されました。



令和7年度 桂雪会 東京・関東支部役員会報告

高橋 彰 (高24)

東京デフリンピック初日の令和7年11月15日、桂雪会東京・関東支部の定期総会を恒例となった原宿駅前「南国酒家」で開催した。定期総会は2年ごとに開催しており、今年は個人メールを登録されている方には、メールで参加を募るなど、新たな周知案内を進めた。

総会は六川裕幸氏(高34)の進行のもと、支部長の阿部靖典氏(高31)の開会挨拶で始まり、本部からお見えになった桂雪会会長の宮本衡司氏(高22)から「SSH活動の成果として、台湾で行われた科学の世界大会『国際科学フェア化学部門』で女子生徒3名の発表が1位となった。スキー部や陸上部も大きな成果を上げている。少子化で減少する生徒数を確保するため、新たに『飯山高校の発展を願う研究会』を立ち上げ、広く地域及び学校への積極的な周知・勧誘活動を行っている。」との挨拶があった。飯山高校の渡辺智先生(高34)からは金井校長先生のお祝いメッセージが代読された。

総会議題に入り、副支部長の高橋(高24)から、本部・支部の活動について、「生徒数の減少で1年生は4クラスになった。120周年記念事業で合宿所は『桂雪会館』に改築された。」と報告した。さらに、藤好しのぶ氏(高44)から会計報告、中島謙次氏(高41)から会計監査報告がなされた。

講演会は、鍼灸治療事業を進めている月岡秀彰氏(高45)が「オートファジーの飯山、健康寿命を延ばすセルフケアと、ふるさとへの恩返し」と題して、温めの湯浴、緩やかな運動、飯山の地産食材の活用など、健康寿命を延ばすための事業を飯山で展開したいと講演された。

休憩をはさんで、懇親会は最年長の岡田庸利氏(高8)の乾杯で始まった。「南国酒家」自慢の中華料理に紹興酒も相まって、久しぶりに再会した仲間とのにぎやかな話の輪が会場一杯に広がった。さらに、年代を超えて、互いの近況やご自分で撮影したお気に入りの写真の紹介など、飯山への熱い思いが語られた。

いよいよ校歌斉唱の時間。山城弘枝氏(高34)のリードのもと、なかなか覚えきれない飯山高校校歌や照丘高校校歌の後、お待ちかねの飯山北高校歌「甲斐の高嶺に〜」が、宮本会長の勢いある腕振りとともに高らかに歌い上げられ、万歳三唱も加わった。最後は顧問の青井富雄氏(高19)の一本締めで閉会し、2年後の再会を期して散会した。

今回は、残念ながら南高出身の参加者が無かったため、南校の校歌は唄えなかった。高20～30代の若手参加が増えており、支部活動の一層の広がりが感じられた。今後も飯山高校のさらなる発展を願いつつ、桂雪会本部と連携しながら、南高、照丘校も含めた同窓生の参加拡大を目指していきたい。



令和7年度 支部役員体制

顧問	青井 富雄(高19)	事務局	六川 裕幸(高34)
支部長・本部代議員	阿部 靖典(高31)	会計監査	中島 謙次(高18)
副支部長・本部副会長	高橋 彰(高24)	世話人	月岡 秀彰(高45)
副支部長	山城 弘枝(高34)		片桐 睦月(高45)
会計	藤好しのぶ(高44)		

【桂雪会 東京・関東支部のご案内】

首都圏在住の飯山高校(飯山北、飯山南、照丘)同窓生の会です。隔年で交流会を開催し懇親を深めるとともに、皆で懐かしい校歌を歌っています。是非、ご参加ください。
連絡先 支部長 阿部靖典090-2629-0267
y19871025tomo@outlook.jp

ホームカミングデー

2025年8月16日(土)、飯山市内において第1回目となる飯山高校のホームカミングデーが実施されました。桂雪会の小橋浩樹幹事長の声掛けで、平成6年度飯山北高卒業の小林一樹氏を代表発起人として、飯山北・飯山南・飯山照岡高校の卒業生を対象に準備委員会を計画しました。案内が急であったこともあり、開催可能な飯山北高校卒業30周年を実施することになりました。小林氏を中心に実行委員の皆さまの尽力で、当日は39名の卒業生の参加を得ました。桂雪会からは宮本会長、小橋幹事長らが出席し、ホームカミングデーの主旨と統合後の飯山高校の現況などの紹介がありました。それぞれ懐かしい交流が行われました。また、当日の会計の残金は次年度以降のホームカミングデーの準備金として桂雪会に繰り入れていただきました。ご参加の皆さま、ありがとうございます。次年度幹事長予定の岩崎司氏も出席いただいております。次年度は3校合同の開催を目指しております。



令和7年度桂雪会役員

本会役員		幹事	
顧問	岩崎 彌 猪瀬 清徳 関 保典 米澤 修一 金井 繁昭	幹事長 副幹事長	小橋 浩樹 山崎 美典 大塚 正 新家 智裕
会長 副会長	宮本 衡司 内山 英樹 高橋 彰 上海 一徳 湯本 直木 小嶋日出子 村石桂太郎	幹事	小田切 昇 藤巻 篤 岡田 敬幸 川久保直市 吉越 利明 小山 巧 島田 和彦 澤木 伸一 宮澤 良裕 湯本 武利
監事	石田 一彦 箕口 徳夫		

支部名	支部長	副支部長
飯山	上松 永林	横川 莊一 村石桂太郎 島田 和彦
秋津	石澤 一芳	丸山 朗
木島	湯本 武利	澤木 伸一
瑞穂	増山 保範	岩松 義雄
柳原	佐藤 正夫	木幡喜美子
外様	春日 早夫	春日 隆
常盤	平野 弘蔵	
太田	青木 彰	庚 繁樹
岡山	井沢 清一	田中 康一
木島平	湯本 直木	瀧澤 俊實
野沢温泉	平田 幸男	市川 公紀
栄	森川 博	
長野	武田 芳彦	瀧澤 国夫
須高	小林 守夫	大熊 文久
豊野	米木 善登	原田 茂
中野	小林 尚人	
豊田	吉岡 典高	小橋 浩樹
津南	島田 哲宏	
県外		
東京・関東	阿部 靖典	高橋 彰 山城 弘枝 藤好しのぶ (会計)

「甲子園出場寄附金」に関する事業の報告

令和元年第101回全国高等学校野球選手権大会への出場に際して、多くの皆様方から多大なご支援をいただきましたことを改めて心より御礼申し上げます。

令和7年11月6日に「甲子園出場実行委員会」を開催し、今年度の以下の事業の実施について了承を得ました。

- (1)施設整備
- ・野球部ごみ処理 25,740円
 - ・バックネット裏水道蛇口。シンク増設 198,550円
 - ・陸上部グラウンドLED照明増設 1,848,000円
 - ・陸上グラウンド整備用トラック 83,450円
- 今後も野球部や他のクラブ、学校全体の教育活動に使わせていただきます。

「桂雪会名簿」発行について

5年ごとに発行しております同窓会名簿が令和7年1月に発行となりました。ご購入を申し込んでいただいた方に送付されております。同窓会名簿につきまして、ご不明な点は同窓会事務局までお問い合わせください。